

令和3(2021)年3月22日

大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 国立極地研究所
国立研究開発法人海洋研究開発機構
国立大学法人北海道大学

北極域研究加速プロジェクト(ArCS II)の公開講演会 『北極の今を知り、これからを探る』を開催します

国立極地研究所(所長: なかむらたくじ 中村卓司)が代表機関を、海洋研究開発機構(略称: JAMSTEC 理事長: まつながただし 松永 是)および北海道大学(総長: ほうきんきよひろ 寶金清博)が副代表機関を務める北極域研究加速プロジェクト(ArCS II *1)では、2021年4月25日(日)に公開講演会『北極の今を知り、これからを探る』を開催します。

<開催概要>

第1回北極域研究加速プロジェクト(ArCS II)公開講演会
『北極の今を知り、これからを探る』

日 時 : 2021年4月25日(日) 13:30~16:00

開催方法 : オンライン (Zoom ウェビナー)

共同主催 : 情報・システム研究機構 国立極地研究所、海洋研究開発機構、北海道大学

参加方法 : 参加無料

ウェブサイトからの事前申し込み制・先着順

(<https://www.nipr.ac.jp/arcs2/outreach/seminar2021-04-25>)

オンライン参加 定員 500名

※参加方法の一部変更について

当初は講演会場での参加も可能としていましたが、新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえ、オンライン参加のみに変更いたしました。チラシ等には講演会場についての記載が残っている場合がありますが、何卒ご了承ください。

主な対象 : 一般

講演会概要:

最近、北極の話題がメディアなどで取り上げられることが多くなりました。北極は地球温暖化の影響を最も大きく受けている地域の一つです。今、北極では何が起きているのでしょうか。北極海、シベリア、カナダ北極圏などで長年活動してきた研究者や北極冒険家が、変わりゆく北極の姿を語ります。また、様々な立場の人が北極を取り巻く課題にどう取り組もうとしているのか、その取り組みを紹介し、

北極のこれからについて考えます。

内 容:

第1部:今、北極では何が起きている？

◆話題提供

『北極海の海氷減少が引き起こす海洋環境への影響:MOSAIC 計画の紹介』

野村 大樹 (北海道大学)

『気温上昇と降水量増加が引き起こすシベリアの永久凍土荒廃』

檜山 哲哉 (名古屋大学)

『シベリア北方少数民族村落の社会変化と環境利用』

大石 侑香 (神戸大学)

第2部:北極のこれからを語り合う

◆パネルディスカッション

モデレーター:柴藤 亮介(アカデミスト株式会社)

パネリスト:榎本 浩之(国立極地研究所、ArCS II プロジェクトディレクター)、

原田 尚美(JAMSTEC)、荻田 泰永(北極冒険家)、野村 大樹、檜山 哲哉、

大石 侑香

※登壇者の詳細は別添の公開講演会ちらしをご覧ください。

<注>

*1 北極域研究加速プロジェクト(ArCS II:Arctic Challenge for Sustainability II、文部科学省環境技術等研究開発推進事業費補助金事業)は、2020年6月にスタートした、我が国の北極域研究のナショナルフラッグシッププロジェクトです。国立極地研究所、海洋研究開発機構、及び北海道大学の3機関が中心となって実施します。

北極は地球温暖化の影響を最も大きく受けている地域の一つであり、北極域の自然環境の急激な変化は、日本を含めた地球全体の環境や人間社会に大きな影響を与え始めています。ArCS IIでは持続可能な社会の実現を目的として、北極域の環境変化の実態把握とプロセス解明、気象気候予測の高度化などの先進的な研究を推進します。また、北極の急激な環境変化が我が国を含む人間社会に与える影響を評価し、研究成果の社会実装を目指すとともに、北極における国際的なルール形成のための法政策的な対応の基礎となる科学的知見を国内外のステークホルダーに提供します。

※詳細は北極域研究加速プロジェクト(ArCS II)のウェブサイトをご覧ください。

(<https://www.nipr.ac.jp/arcs2/>)

別紙資料:公開講演会ちらし

お問い合わせ先

(報道について)

国立極地研究所 広報室

TEL: 042-512-0655 E-mail: kofositu@nipr.ac.jp

(北極域研究加速プロジェクトに関して、講演会の内容について)

国立極地研究所 国際北極環境研究センター

柿本 晃治郎(かきもと こうじろう) / 毛利 亮子(もうり あきこ)

TEL: 042-512-0922 E-mail: arcs2_nipr@nipr.ac.jp

北極の今を知り、 これからの探る

最近、北極の話題がメディアなどで取り上げられることが多くなりました。

北極は地球温暖化の影響を最も大きく受けている地域の一つです。今、北極では何が起きているのでしょうか。

北極海、シベリア、カナダ北極圏などで長年活動してきた研究者や北極冒険家が、変わりゆく北極の姿を語ります。

また、様々な立場の人が北極を取り巻く課題にどう取り組もうとしているのか、その取り組みを紹介し、北極のこれからの探るについて考えます。



2021
4.25 SUN
13:30-16:00
[OPEN ▶ 13:00]

会場 × オンライン配信
[50名] [500名]

Zoomウェビナーでの配信を予定

参加無料 / 事前申込制・先着順

会場
シダックス
カルチャーホール
東京都渋谷区神南1-12-10
JR渋谷駅 徒歩6分
東京メトロ渋谷駅 徒歩6分



※当イベントは新型コロナウイルス感染の状況を踏まえ、感染予防と流行拡大防止のための対策を実施しておこないます。なお今後の状況によっては、オンライン配信のみでの実施となる場合がございます。

第1部：今、北極では何が起きている？

話題提供

野村 大樹 (北海道大学)、檜山 哲哉 (名古屋大学)、大石 侑香 (神戸大学)

第2部：北極のこれからの語り合う

パネルディスカッション

●パネリスト

榎本 浩之 (国立極地研究所、ArCS IIプロジェクトディレクター)、原田 尚美 (JAMSTEC)、荻田 泰永 (北極冒険家)、野村 大樹、檜山 哲哉、大石 侑香

●司会・モデレーター 柴藤 亮介 (アカデミスト株式会社)



「北極海の海氷減少が引き起こす海洋環境への影響：MOSAIC計画の紹介」

野村 大樹 (北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター 准教授)

専門は、海氷生物地球化学、極域海洋生物地球化学。北極海、オホーツク海、南極海を中心に、海洋生態系や地球環境の変動と相互作用する海洋・海水中の無機・有機ガスの動態変化と物質循環、その海洋・大気環境への影響を研究している。2020年、北極海に砕氷船を漂流させて通年で観測を行うMOSAIC計画に参加。



Daiki Nomura



「気温上昇と降水量増加が引き起こすシベリアの永久凍土荒廃」

檜山 哲哉 (名古屋大学 宇宙地球環境研究所 教授)

専門は水文学、気候学、地球環境学。気候変動がシベリアの水・物質循環に及ぼす影響や、それらが現地社会に及ぼす影響を、国際共同研究や現地のステークホルダーとの協働を通して、超学際的に理解することを目指している。



Tetsuya Hiyama



「シベリア北方少数民族村落の社会変化と環境利用」

大石 侑香 (神戸大学大学院 国際文化学研究所 講師)

専門は文化人類学。西シベリアの森林地帯にて北方先住民・ハンティを対象に現地調査を行う。人と環境の相互作用に関心を持ち、先住民のトナカイ牧畜や漁撈(ぎょうろ)、狩猟採集等の生業や人類の毛皮利用について研究を行う。



Yuka Oishi



Hiroyuki Enomoto

榎本 浩之

(国立極地研究所 副所長
ArCS II
プロジェクトディレクター)

専門は、雪氷学・気候学、リモートセンシング工学。海氷・氷床・積雪変動の衛星リモートセンシングを実施し、雪氷圏変動と気候との関係を探っている。気候変動に関する政府間パネル (IPCC) の報告書を執筆。国際北極科学委員会の副委員長。

Naomi Harada

原田 尚美

(JAMSTEC
地球環境部門
地球表層システム研究センター
センター長)

専門は、古海洋学、生物地球化学。採取した海底の堆積物に含まれる有機物や微化石を解析し、過去の海洋環境を復元する研究や、北極海の海氷減少にともなう海洋生物の生産や生態系の応答を明らかにする研究を進めている。第60次南極地域観測隊・副隊長兼夏隊長。



Yasunaga Ogita

萩田 泰永
(北極冒険家)

カナダ北極圏やグリーンランド、北極海を中心に主に単独徒歩による冒険行を実施。2000年から2019年までの20年間に16回の北極行を経験し、北極圏各地を約10,000km移動する世界有数の北極冒険家。次世代に自身の体験を伝える活動にも取り組む。

司会・モデレーター

柴藤 亮介 (アカデミスト株式会社) Ryosuke Shibato

2014年に日本初の学術系クラウドファンディングサイト「academist」を設立。「研究者をつなぐ」事業を展開することで、開かれた学術業界を実現し未来社会の創造に貢献することを目指す。

会場

シダックスカルチャーホール Access JR渋谷駅 徒歩6分 / 東京メトロ渋谷駅 徒歩6分

東京都渋谷区神南1-12-10 <https://www.shidax.co.jp/ssv/hall/index.html>



お問い合わせ先

情報・システム研究機構

国立極地研究所 国際北極環境研究センター

e-mail arcs2_nipr@nipr.ac.jp TEL 042-512-0922

申込詳細

会場またはオンラインでの参加をご希望の方は、下記の「お申し込みフォーム」リンクよりお申し込みください。2名以上の場合は、お手数ですが1名ずつお申し込みください。定員に達し次第募集を締め切ります。

お申し込みフォーム

<https://www.nipr.ac.jp/arcs2/outreach/seminar2021-04-25>

※プログラムは都合により変更する場合があります。

